

## おじいちゃんマスク

山本 真綺

私はマスクがあまり好きではありません。暑くてきゅうくつで息苦しいからです。でも、新型コロナウイルス感染予防のため学校では必ずマスクをしないとけません。なので、暑い日も我慢してつけています。学校が初めて休校になった3月ごろから私の生活は一変しました。朝起きたらまず検温。あまり外出もできなくなりました。友達と

「今年も一緒に行こうね。」

と楽しみにしていたお祭りも中止となり、浴衣を着ることもありませんでした。学校では友達と席をはなしたのでグループ活動ができなくなり、音楽の時間では大きな声で歌いたいのにマスクをしているので小さな声で歌っています。夏休みもいつもより短くなってしまうました。今年の春にお母さんが「マスクがどこにも売っていない、どうしよう。」とよく話していました。

「あそこのスーパーに売ってたよ。」

と友達に教えてもらい夜中にパジャマ姿で買いに走ったりもしていました。そのような時に日当山に住んでいるおじいちゃんから

「マスクを作ったから取りにおいで。」

と電話がありました。さいほうが得意なおじいちゃんは花柄

のマスクを作って私たちにくれました。早速つけてみると紐がダランとなりぶかぶかだったのでお母さんにあげました。2週間後またおじいちゃんから新作ができたと言電話があり取りに行くのと今度は小さすぎて鼻が出てしまいます。

「うーん子供用は難しいなあ。」

とおじいちゃんは首をひねってマスクを引つ張ったりしていました。しばらくしてまたおじいちゃんから連絡があり

「今度は大丈夫だが」

とニコニコしながら新作のマスクを持ってきてくれました。つけてみると私の顔にぴったりです。今度は耳が引つ張られることも隙間もありません。それからもおじいちゃんはマスクを作り続けて私の机の上はマスクでいっぱいになりました。

「もうたくさんあるからいらないよ。」

と言っても会うたびに

「はいこれはたまちゃん分。」

とニコニコ笑いながら妹のたまき分までくれます。

今はどこへ行くにもマスクが欠かせません。手洗いもこまめにしておじいちゃんの為にも感染しないようにしたいです。今日はどのマスクをつけて学校に行こうかな。ありがたいおじいちゃん。